

長大インフラ長寿命化C

橋梁点検・診断技術 現場実証試験

内閣府SIP事業の一環で初開催

長崎大学のインフラ長寿命化センター(松田浩センター長)は27日、内閣府のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)事業の一環として、橋梁の適

切な維持管理に向けた点検・診断技術の現場実証試験を行った。西海市大島町の県道15号線・中戸橋の現場には、SIP事業に取り組む大学や、道守関係者ら

音検査等を用いた飛行ロボットによる点検システムの研究開発と、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)開発技術の▽サンプリングモアレカメラを用いた構造物

PC桁の現有応力測定の実証試験の様子



産官学の約50人が参加。五つの最新技術を目的の当りにした。実証したのは、SIP開発技術の▽橋梁点検ロボットカメラ等機器を用いたモニタリングシステムの創生▽近接目視・打

このうちPC桁の現有応力測定法は、主桁点検は、風の影響で説明のみ。

松田センター長は本紙の取材に対し「長崎は塩害などの影響を受ける海に面した橋が多

手法の検討を進める方針を示した。SIP事業は、国の省庁や分野の枠を超えた、革新的な先端技術の実現を目指したもので、取り組む課題が11あり、このうちの二つが「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」。長崎大学は、九州・山口地区でこの課題に取り組む研究・実装主体として、▽技術の社会実装に向けた研究開発成果の従来技術との比較▽技術の成

今年の実証試験は、先端的な点検・診断技

術を実際の現場で検証。その過程を実務者らへ公開することによる、課題の抽出や意見交換を目指して初めて開いた。

度以降も、さまざまな技術を対象にした実証試験を行う。併せて、大学、地方自治体、国の機関、各種団体で構成する「九州・山口地域インフラ・アセットマネジメント協議会」(仮称)を設置。研究開発成果の情報共有や啓発活動、地方自治体への実装支援などを展開していく方針だ。

最新点検・診断技術 地方への実装支援

松田センター長は本紙の取材に対し「長崎は塩害などの影響を受ける海に面した橋が多

今年の実証試験は、先端的な点検・診断技

度以降も、さまざまな技術を対象にした実証試験を行う。併せて、大学、地方自治体、国の機関、各種団体で構成する「九州・山口地域インフラ・アセット

マネジメント協議会」(仮称)を設置。研究開発成果の情報共有や啓発活動、地方自治体への実装支援などを展開していく方針だ。